



みのる法律事務所  
弁護士 千田 實  
〒021-0853  
岩手県一関市字相去57番地5  
TEL:0191-23-8960  
FAX:0191-23-8950

みのる法律事務所便り

第379号

令和3年11月

い な べ ん だ べ ん く  
田舎弁護士の駄弁句 105



の 飲 み 食 い も 歌 い 騒 ぐ も 楽 し い が  
お も り 遣 り 合 う 心 は 深 し

令和3(2021)年11月1日  
あおぞらうきよのすて  
青空浮世乃捨

新型コロナウイルスの感染者数が激減し、緊急事態宣言が解除されました。ありがたいことです。

緊急事態宣言下では、人が集まり、飲み食い、歌い、騒ぐことはできず、寂しい思いもしました。

しかし反面、巣籠もりなどと呼ばれたように、家庭の中で家族とこれまでになかったほど親密な時間を持ってました。手紙、電話、メール、スマホを通じて、これまで疎遠となりがちな大切な人との関係が復活しました。

緊急事態宣言解除となった後も、家族や大切な人を思い遣り合う生き方は、忘れてはならない気がします。

新型コロナウイルスという異人類と人類との闘いは、大きな犠牲を払っていますが、人が集まって飲み食い、歌い、踊り、イベントをし、旅行をすることだけが楽しいことのような、戦後復興後「エコミックアニマル」と呼ばれたような経済中心の生き方を、根本的に反省するチャンスとなった気がします。

緊急事態宣言解除後も、人が集まって騒ぐだけが楽しみではなく、自分にとって大事な人を思い遣り合う付き合いこそ、心の底から楽しいことであることを見直したいものです。新型コロナウイルス問題発生前の生き方に戻るだけでは、折角の犠牲は活かせません。

# いなべんの短編集 106 田舎弁護士の駄弁句

としより 年寄は やまいびんぼうこどく 病貧乏孤独だが

死ぬこと以外 カスリ傷だよ

令和3(2021)年11月1日  
青空浮世乃捨



年寄は、誰だって病気を持つことになります。年金だけでは足りず、貧乏となりかねません。人との付き合いが減り、孤独となりそうです。「病と貧乏と孤独」は、年寄の三種の神器、つまり神から受け伝えられた宝物ということになりそうです。ありがたくもない宝物です。ですが、神が与えるというのですから、受けざるを得ません。

人生100年時代、年寄時代は長くなります。病と貧乏と孤独という年寄の三種の神器と、どう向き合えばよいかという問題は、誰もが本気で考えてみなければなりません。

畏友松村諭先生は、「死ぬこと以外はカスリ傷」と語っています。共鳴します。病も貧乏も孤独も、「擦り傷」、つまり「皮膚をものがこすってできる軽い傷」位と思えば、年寄は何も気にすることはなくなります。生きているうちは、生きていることを楽しめばいいのです。クヨクヨする必要はありません。

余命宣告を受けた時に、「浮世をば 楽しみ尽くせ 病まで」という駄弁句を詠みましたが、「死ぬこと以外はカスリ傷」という松村先生の考え方には共鳴します。病まで楽しむという位まで居直らなければ、病と貧乏と孤独の長い老人時代は地獄となります。

「人生100年時代」を楽しく生きるために、『いなべんの短編集』第7話は、『60歳から黄金期』と題して、「死ぬこと以外はカスリ傷」という松村諭先生のことを書きました。生き方、考え方一つで、人生100年時代の老後が楽しくなるのです。

事務所便り『的外 第379号』と同封します。目を通して戴ければ幸甚です。

## 新型コロナウイルス問題終息後の生き方を思う。



新型コロナウイルス問題も、いずれ終息するでしょう。緊急事態宣言も解除されました。これで完全に新型コロナウイルス問題が解決したとは言い切れませんが、いずれは終息することは間違いないと思います。降り止まない雨はないと言いますが、新型コロナウイルス問題もいずれは終息するでしょう。

令和2(2020)年3月28日に、民法(債権法)改正の解説本発刊記念講演会を予定していましたが、新型コロナウイルス問題で延期となって1年8か月以上となりました。2年以内には再開したいものです。そういう期待が持てそうな今日この頃です。

新型コロナウイルス問題発生前の日本国民の生活振りは、戦後日本経済が復興し、豊かで便利な生活ができるようになり、人が集まって飲み食い、歌って、踊って、旅行をし、イベントを行い、騒いで遊ぶことが当たり前となっていました。人付き合いの少ない老人などは、パチンコやスロットマシン、競輪、競馬、テレビを観るなどで時間を潰していました。

新型コロナ問題が発生し、緊急事態宣言が出され、多くの人が集っての飲食、カラオケ、イベント、団体旅行等々がしにくくなりました。それによって辛い思いをした人が多くいたことは知っていますし、そういう人に対しては、心から同情します。私事ですが、勉強会がやれずにいることは、残念でなりません。

ですが、新型コロナウイルスという異人類は、人類に対し、反省の機会を与えてくれたことも間違いありません。新型コロナウイルスが人類に反省の機会を与えてくれた点は、数多くありますが、私には特に次の二点が印象に残っています。

一つは、人類同士で戦争などしていることの馬鹿馬鹿しさを改めて知らされたという点です。敵は人類ではないのです。ウイルスなどの異人類なのです。二つは、経済的豊かさや便利な生活の見直しが不可欠だという点です。

一つ目に気付かせてくれた問題は、これまでも機会を見て述べてきました。新型コロナウイルスという異人類との闘いは、人類同士の争いである国と国との戦争などしている場合でないことを、全人類に知らせてくれました。

それでも尚、目を覚まさない馬鹿な政治家は、どの国にも沢山います。馬鹿な政治家が悪いことは、言うまでもありませんが、そんな政治家を選ぶ

国民が馬鹿なのです。このところは、今回はここまでにします。

今回述べたいのは、二つ目の問題です。飲み会、カラオケ、旅行、各種イベント、パチンコ、次々とあるオリンピック、ワールドカップ、世界陸上…。楽しいことが続きます。飲み食い、騒ぐ連日です。これでいいのでしょうか。

地球環境が破壊され、温暖化による気候変化、放射能問題等々、人類の行き先が心配となります。このところを見直せと、神は新型コロナウイルスを使って、人類に警鐘を打ち鳴らしているのではないのでしょうか。

今回は、政治とか、地球規模と言う大きな問題は別にして、個々の人間の、心の問題に触れてみます。新型コロナウイルス問題は、一人一人の人間としての生き方につき、反省の機会を与えてくれたと思います。そのことを特に申し述べたいのです。

色々述べたいことはありますが、特に述べたいのは、人生の最も楽しいところは、多くの人が集まって飲み食い、歌い、踊り、騒ぐことにあるのではなく、大事な人と心を通じ合わせるという点にあるということです。

新型コロナウイルスは、巣籠もり生活を余儀なくさせたため、家族というこの世で最も身近で、大切な人との関係をより深めさせてくれました。この家庭中心の楽しい生き方は、新型コロナウイルス問題が終息しても続けられなければなりません。

外へ出る機会が減り、これまで疎遠となりがちな大切な人との連絡も取り合うようになった人も少なくはありません。折角復活した旧交です。新型コロナウイルス問題が終息した後も、大事にしたいものです。

新型コロナウイルス問題は、大勢の人が集まり騒ぐ、これまでの生活を見直す機会を人類、特に経済的に豊かで、便利な生活を送れている先進国の人々に、反省の機会を与えてくれています。これを活かさなければならぬという思いがしてならないのです。

中国では、音速の5倍のスピードで飛ぶ兵器を開発し、米国ではこれにどう対応するか等というニュースも流れています。兵器開発競争などをしていゝる馬鹿な政治家に腹が立ちますが、我々一人一人も、もう少し利口にならなければならぬと思います。大勢で集まって騒ぐだけではなく、たまにはもう少し深く物事を考えて見たいものです。「核兵器で異人類と戦えるのでしょうか」。ちょっと考えても分かります。私達一人一人も、もう少し、考える生活に戻らなければならぬと思います。

